

地域が変わる—— 地域活性化の現場

近江八幡

◎権座・水郷を守り育てる会 ▶ <http://gonza.jp/>

湖国が次代へ伝えるべき「未来遺産」。 地域の人々の取り組みが 権座と周辺の水郷風景を守り育てている。

昨年12月、失われつつある文化や自然を未来へ伝える市民の活動を日本ユネスコ協会連盟が選定する「プロジェクト未来遺産」に、近江八幡市白王町の「権座・水郷を守り育てる会」の活動が登録された。滋賀県では初めてのことだ。地域の人々が守ってきたのは、ここで見られなくなった湖国の原風景。田舟で湖を渡り、湖上の島で酒米や野菜などを育てるとともに、コンサートや収穫祭の開催を通して、その存在を発信し続けている。地域をひとつにした活動の経緯と原動力に迫った。

西の湖に残された最後の「水郷の原風景」

近江八幡市街から北上して西の湖へ近づくと権座は見える。長命寺川が内湖と出合う河口の間際に浮かぶ、広さ約2.5ヘクタールの島。もともとは島ではなく、湖に注ぐ川の流れによって中州

が飛び地となったものだが、湖に悠然と浮かぶ姿はまさに小さな島だ。

湖上に点在する小島に田舟が行き交う姿は、かつては琵琶湖や西の湖での日常風景だった。この白王町周辺にも7つの小島があったが、1957年に始まった干拓（大中之湖干拓）で6つの島が陸続きとなり、権座だけがその姿

を残した。西の湖周辺に数多く存在した水郷の原風景は、今や権座の周辺でしか見られない。

この干拓の後、長年この権座が持つ価値が注目されることはなかったが、2006年に権座を含む周囲の水郷が、文化財保護法に基づく「重要文化的景観」に全国で初めて指定されたことが転機となった。

唯一残った湖国の原風景の中で 幻の酒米「渡船6号」の栽培を

「権座周辺の景観は湖国の原風景であるとともに、全国的にも極めて貴重なものです。そんな宝物が身近にあるということに気づき、次世代へ残す行動を起こすことが地元暮らし私たちの責任だと考えました」。「権座・水郷を守り育てる会」会長の東房男（あずま）さんは力を込める。同会は白王町集落営農組合を母体としてできた組織で、創設当



対岸から見た権座と田舟。3艘の舟を合わせた筏状の舟で米や農機具を運ぶ

初から権座と周辺の景観を守る取り組みを主導してきた。「重要文化的景観の指定を受けて文化庁が開いた住民向けワークショップ等により、権座周辺の水郷の景観を守り広めていきたいという意識が、地域の住民の中で高まり始め、『権座・水郷コンサート』の開催へとつながっていきました」と話すのは同会事務局の大西實さん。

また、往時のように田舟で権座に渡り、耕作する姿をそのまま保全するために、農業技術振興センター等が復活させた酒米「滋賀渡船6号」の作付けを08年から始めた。山田錦の親系にあたるが、栽培が難しく病害虫にも弱いため生産が途絶えていた幻の酒米だ。作付けを始めた当初は、高さ150cmにもなる長い稲穂が風で倒れたが、機械が使えず手作業で刈り入れた。「栽培の難しい渡船6号をあえて選んだのは、風景とともに地元の米を守りたいという思いがあったためです。権座の風景を守りたいと考えた時に、この米の紹介を受けたことはまさに『渡りに船』でした。何より渡船という名は、田舟が島と陸地を行き来していた水郷の景色に通じるものがあると思い、渡船6号でオリジナルの酒を造りました」と大西さん。

土地への思いが 権座の農業風景を支えている

現在は、権座の半分以上を占める1.5ヘクタールの水田で渡船6号を栽培している。20戸の営農組合員が5月初旬の田植えから10月中旬の稲刈りまで取り組み、10アール当たり約400kgの米を収穫するが、権座での稲作は平地の何倍も労力を要する。草刈機ひとつ運ぶにも舟に乗せるほかに、田んぼが不整



権座では子供が参加できる農作業体験も開かれている

形で農道もないため、大型機械も不向きだ。灌水設備も十分にあるわけではないので、水はポンプで湖から汲み上げる。収穫時は田舟に米を積み、白王町側の浜でクレーンを使って軽トラックに積み替える。このような苦労を重ねて収穫された米で、東近江市の老舗蔵元が毎年純米吟醸酒「権座」を造っている。豊かな香りとしつこい味わいが好評だ。

「権座での作業は大変ですが、生まれ育ったこの土地が好きだからこそできるのです。権座で収穫された米で酒が醸されて大勢の人に飲んでもらえれば、ここに残る湖国の原風景への認識も広まるでしょう。私たちが農作業の風景を含めて景観を保全できます」と東さん。

権座の田んぼには魚道を作り、ニゴロブナなどの稚魚が安全に育つ「魚のゆりかご水田」を設けて琵琶湖の環境を守る取り組みも行われている。「権座」の酒造時にできる米粉も活用され、米粉を使ったパンや団子、シチューなどさまざまな地場産品が生まれている。

地域の活動が広めた 「湖国の財産・権座」の魅力

このような産品とともに権座の存在を広めているのが、同会が毎年11月に開



「農の収穫祭 in GONZA 2013」での水郷コンサート

催している「農の収穫祭 in GONZA」だ。水郷コンサートのほか、白王町で収穫された農産物や権座で栽培された野菜を使ったカレーなどの販売、権座一周ウォークや純米吟醸酒「権座」試飲会等が催され、多くの人でにぎわう。年々参加人数を伸ばし、去年は例年の2倍もの来訪者が権座へ「上陸」した。水郷保全への共感者を募るサポート会員の数も、権座が注目されるにつれて増加している。

06年の「重要文化的景観」指定、08年に西の湖がラムサール条約登録湿地に登録されてから、「にほんの里100選」に白王町周辺が選ばれるなど、権座周辺を湖国の財産とする認識は年々広まりつつある。昨年、近江八幡市のまちづくり会社も権座に竹製のモニュメントを設置してライトアップイベントを開催した。

今回の「プロジェクト未来遺産」登録は全国からさらに注目を集めるだろう。「私たちは今後もできることを積み重ねていだけですが。最近では白王町へ戻ってくる若い世代も増え、一緒に権座を守っています。地域にとってはそれが一番の収穫ですね」と東さんはほほ笑む。